



こすもす

研修会(9/13)へのご協力 ありがとうございます

9月11日(木)～13日(土)に和洋女子大学の田島大輔先生をお招きしての研修会を行いました。3日間続けた研修会で、11日は私立幼稚園連合会主催の講演会、12日は佐賀女子高校と連携しての実践を通じた研修会、さらに13日(土)は午前中に保護者対象の講演会、午後からは本園の全職員対象の研修会というたいへんハードなスケジュールでの3日間でした。参加された他園の先生方や保護者の方々にも大変好評で、貴重な機会となりました。特に13日(土)は保護者の皆さまにはご無理をおかけしたと思いますが、全職員が一堂に会する本当に貴重な研修の機会となりました。講師の田島先生はもう何年も続けてご来園いただいている先生ですが、毎年、教育・保育の質の向上や先生方の成長が見られると驚かされていました。これも、保護者の皆様の暖かいご協力やご理解があったからこそだと感謝しています。本当にありがとうございました。この成果は日々の教育・保育に生かしていきたいと思っております。

田島先生の保護者向け講演会の様子から



上記でもお伝えしました9月13日の田島先生の保護者向けご講演の内容から少しご紹介します。

Q: 非認知的能力※が大事だというのはどうしてですか?

A: 私たちは「文字が読める、うまくブロックを積み上げられる。三角形と四角形と五角形を区別できる」といった、目に見えて知的に賢くなったと感じる認知的能力を重視しがちです。しかし、幼児期に認知的能力を高めることが、その後の人生の成功や安定につながっているのか、いろいろと調べた結果あまり関係がないことが分かってきました。大事なことは上手いかない時に諦めず「どうしてかな」「こうやってみよう」

「これがダメなら、ああやってみよう」など、目標の達成までがんばる姿勢を身に付けることです。我慢できること、感情をコントロールする力なども大事です。そのような力は一生残ります。大人になって社会で成功する力に繋がります。

Q: 非認知的能力はどうやって身に付けるのですか?

A: 非認知的能力は子ども主体の遊びで育ちます。子どもの自発的な部分を大切にしましょう。させられるのではなく自分からやっていく中で育ちます。特に幼児期の場合は「遊び」です。子どもたちは遊びこむ中で、やる気、意欲、粘り強さ、探究していく力が身につけてきます。

ふたばこども園では、田島先生のように子ども主体の教育・保育が大切であるという考えをもとに、子どもたちが豊かに遊べる環境を整えてまいります。

※非認知的能力 → 非認知的能力は、物事に対する姿勢や取り組み方、他者との関係構築に関わる能力であり、具体的には以下のような要素が含まれます。

- ・ 自己制御: 感情や行動をコントロールする力。
- ・ 粘り強さ: 困難に直面しても諦めずに目標に向かって努力し続ける力。
- ・ 協調性: 他者と円滑にコミュニケーションを取り、協力する能力。
- ・ 感情調整: 自分の感情を理解し、適切に表現する力。

祖父母保育参加大盛況でした

9月16日(火)と17日(水)に2歳～年長児の祖父母保育参加を実施しました。参加された人数を確認したところ、なんと二日合わせてのべ200名を超えるおじいちゃん、おばあちゃんにおいでいただきました。お孫さんと夢中になって、笑顔いっぱい遊ばれた後、最後にお集まりいただいて感想を伺いました。その中では本園の教室環境や子どもたちを遊ばせる工夫などにまで気付いていただいた方もおられて、さすがたくさんのご経験を積んでこられたみなさまと感心することしきりでした。残暑厳しい中にご参加いただき本当にありがとうございました。子ども達も大変喜んでいました。



佐賀女子高校と清和高校の生徒さんたちが共に保育を体験しました

新聞やテレビ等で大きく報道されましたが、9月12日(金)に女子高と清和高校の生徒さんが合同保育実習を行いました。最初はなかなかうちとけられなかった両校の生徒さんたちですが、子どもたちと一緒に遊ぶ中で少しずつお互いに話すようになり、後半の研究協議ではお互いに意見を述べあう姿が見られました。両校の合同での研修は昨年度に続き2回目となりますが、保育士不足がささやかれる中、将来の進路に保育士を選んでもらえる生徒さんが少しでも増えてくれればよいと思います。